

## 2 高大連携に関する取り組みについて

本学は、これまで大学入学後に大学の核となる学生を育成することを目的に、平安中学校・平安高等学校と付属化に関する協定を締結するとともに、宗門関係学校（教育連携校、関係校）との連携を強化し、また、滋賀・京都・大阪・奈良の公立・私立の高等学校28校と、高大連携に関する包括協定に基づいて教育連携に取り組んできた。これらの高等学校とは、教育の連続性を見据えた「対話型（双方向型）」の高大連携を目指し、“学びの接続”と“キャリアの接続”に向けた様々な高大連携事業を展開している。

2012年度は、引き続き各校との高大連携事業を実施するとともに、高大連携フェロー（中等教育や高等教育に関する優れた知識や経験を有するアドバイザー）を活用して、個々の高大連携事業の効果について検証をおこない、高等学校との情報交換も重視しつつ、高大連携事業の再構築に向けた取り組みを開始した。

### 1 龍谷大学付属平安中学校・平安高等学校の教育展開

#### ●「高大連携教育プログラム」の実施

大学入学後に本学の核となる学習意欲の高い付属校生を育てることを目的に、「龍谷アワー（学長講演及び付属平安高校出身学生の講演）」、「キャンパスビジット（キャンパス見学や講義聴講）」等、低年次からの体系的なプログラムを実施した。2012年度は、はじめて「龍谷ウィーク」を実施し、大学生の就職状況に関する話や大学生との交流をとおして学修以外の面からも大学生活をイメージさせ、生徒の進路について考える機会となった。

#### ●「高大連携科目」への協力

高等学校と大学との垣根を越えた付属校の魅力ある科目として、「高大連携科目」を正課カリキュラムに設置している。文系の生徒を対象とした「現代を学ぶ」では、政策学部から「NPO／NGOの世界」、短期大学部から「非行少年への支援と処遇」の2つのテーマを提供した。また、理系の生徒を対象とした「理数研究」では、本学理工学部の教員が授業に積極的に参画し、授業内容の更なる充実に向けて取り組んだ。

#### ●付属校との意見交換機会の充実

付属校との連絡を密にし、連携推進事項にかかる諸方策の具体的展開にかかる企画・立案を調整するために、両校で組織する協議会のもとに「連絡調整会」を設置し、隔週で会議を開催した。

## 2 教育連携校・関係校との教育連携

#### ●教育連携事業の実施

建学の精神を同じくする宗門関係学校の中で、教育連携に関する協定を締結する北陸高等学校（福井県）、崇徳高等学校（広島県）、神戸龍谷高等学校（兵庫県）、相愛高等学校（大阪府）に対し、進路意識の醸成と大学進学に向けた動機付けをねらいとして、模擬講義や進路ガイダンス、大学見学会等の教育連携事業を実施した。

#### ●教育連携校オリエンテーションの実施

教育連携校から推薦入試で合格した生徒を対象に、「教育連携校オリエンテーション」を実施した。龍谷ミュージアムの見学や学生との交流、学部別ガイダンスをとおして、入学後の大学生活について理解し、学修意欲を向上させる機会を提供した。

#### ●「龍谷アドバンスト・プロジェクト」への協力

浄土真宗のみ教え、親鸞聖人の精神を建学の精神とする浄土真宗本願寺派の宗門関係学校で構成される龍谷総合学園が主催する「龍谷アドバンスト・プロジェクト」は、全国の加盟高等学校を対象として行われ、e-Learningによる事前学習やプレゼンテーションコンテストを含む合宿研修である。2012年度も、本学は中核校として企画・運営に協力し、会場の提供や講師及び学生スタッフの派遣をおこなった。

### 3 高大連携協定校との教育連携

#### ●高大連携事業の再構築

2012年度は、高大連携協定校28校のうち、2009年度に高大連携に関する包括協定を締結した14校に対して、既存の高大連携事業の効果についてアンケートや高校へのヒアリングをとおして高大連携事業に関する検証をおこなった。これらをもとに、高大連携事業の再構築へ向けた取り組みを開始した。

#### ●学生との交流を含めた高大連携事業の推進

高大連携事業の中でも、高校生により近い存在である大学生との交流を含む事業は、高校生の満足度も高く、また事業の効果も期待される。2012年度は、大学見学会等の際に積極的に学生との交流の機会を設定した。また、「総合的な学習の時間」で国際文化をテーマに学習する生徒に対し、留学生との交流会をおこなった。

#### ●高大連携協定校の特色づくりの支援

高大連携協定校である京都府立柱高等学校の特色づくりへの支援として、2010年度から引き続き、2年生の理数系生徒を対象とした「高大連携連続講座」を実施した。2012年度は、動機付けとしての講演及び定性分析に関する2回の講義と3回の実験をおこなった。本学理工学部教員と大学院生によるT.A.（ティーチング・アシスタント）の指導の下、生徒が大学の高度な施設設備を使い、実験や実験レポートの作成に取り組むことにより、科学に対する興味や知的探究心を育成することに寄与した。

#### ●高大連携協定校のキャリア教育支援

高等学校では、キャリア教育への取り組み強化が求めら

れていることから、高大連携事業においても、高大連携フェローの活用や高大連携協定校との意見交換をとおして、キャリア教育の観点を踏まえた事業展開をすべく検討を開始した。

#### 4 その他の連携事業

---

##### ● 教育委員会等との連携

地域貢献の一環として、滋賀県教育委員会との協定に基づき「滋賀県立高等学校生徒を対象とする大学連続講座」に、2012年度は社会学部から「日本の宗教」をテーマに講座を提供した。また、大阪市の「大阪市立学校活性化条例」に基づく大阪市立高等学校の「学校協議会委員」に副学長を派遣し、「教育委員会」、「高等学校」、「学校協議会」の三者が連携しながら推進する新たな“学校創り”への活動に積極的に取り組んだ。

##### ● 模擬講義への対応

模擬講義は、高校生が大学の学びに触れる機会として多くの高等学校で進路学習の一環として実施されており、本学への依頼も増加している。2012年度も、協定の有無に関わらず、多くの高等学校から模擬講義の要請があり、高大連携フェローBを活用し、専任教員と協働で、高校学校からの要請に積極的に応えた。